巻頭言

世界獣医師会の次期会長への就任の抱負とワンヘルスの推進等

公益社団法人　日本獣医師会

会 長　藏 内 勇 夫

誌面をお借りして報告させていただきます．私は本年2月，2年ごとに実施される世界獣医師会（WVA）の「次期会長」選挙に晴れて，日本人として初めて当選いたしました．

WVA次期会長選挙は投票権を持つWVA会員の代表者が電子投票により実施するものであり，今回の選挙には世界中から4名が立候補しましたが，さまざまな地域の方から支持をいただいたおかげで，1回目の投票で過半数を獲得し当選を決めることができました．皆様のご支援の賜物であり心より感謝申し上げます．

当選者はWVAの役員となり，次期会長，会長，前会長としてそれぞれ2年間，合計6年間の任期を務めます．正式には4月16日に南アフリカで開催されたWVA総会で正式に次期会長に就任いたしました．

世界獣医師会（WVA）は1959年（前身の団体は1853年から活動）に設立された世界70の国と地域の獣医師会や獣医学会が加盟する団体です．WVA戦略計画（2020～2025）を策定し，ワンヘルス・獣医学教育・動物福祉・動物用医薬品管理を優先課題として活動しています．

振り返れば，私は，これまで日本獣医師会会長及びアジア獣医師会連合（FAVA）会長として，日本からアジア，さらには世界に向けてワンヘルスの実践活動の普及に努めてまいりました．このような取組が評価され，2023年4月に台湾で開催された世界獣医師大会（WVAC）において，私は「WVA会長ワンヘルス特別賞」を受賞するとともに，その会合に参加した多くの関係者からWVA会長への就任を期待する旨のお言葉をたくさん頂戴しました．

その後，私は熟慮して，今後における私たち獣医師の活動については，獣医師の社会的地位をさらに高めるとともに，ワンヘルスに象徴されるように，国内はもとより世界に向けた広範な視点で推進していく必要があると考えました．そのためには，地方獣医師会や会員構成獣医師の皆様方をはじめ，国内の関係団体，行政機関及び教育機関，さらには国際獣疫事務局（WOAH（OIE）），世界保健機関（WHO）などの国際機関とも連携・協力し，獣医師をめぐるさまざまな課題に積極的に取り組んでいく必要があると考えました．

もちろん，立候補に当たっては正式な手続きを踏み，届け出前の昨年10月に公益社団法人 日本獣医師会の業務運営幹部会に諮り，2024年度WVA次期会長選挙への候補者として全員一致でご推挙いただいたことを受け，同選挙に立候補する決意をしました．このことは地方獣医師会の会長を始め関係者の皆様にお知らせしたところです．

また，WVA次期会長選挙に当選した本年3月には，私のコメントの中で「貧困，経済格差の解消こそがワンヘルスの原点であり，これなくして地球を救うことはできない．今，世界が直面している地球温暖化，森林破壊などの深刻な環境問題は，全て人間の仕業である．このかけがえのない地球を未来の子どもたちに

確実に引き継ぐためにも，私の人生をかけて，世界においてワンヘルスを進める.」と固い決意を表明しました．引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします.

それでは，改めて，私のワンヘルスの推進についてのこれまでの活動と今後の方針についてお伝えするとともに，私の抱負を述べさせていただきます.

まず，ワンヘルスを推進し調和のとれた世界を目指します.

私は，ワンヘルス推進の先駆者として，地元から国際レベルに至るまで顕著な声をあげてきました．私の活動は2015年のグローバル・ワンヘルス会議（GCOH）での基調講演から始まり，日本全国の獣医師会と医師会との間で多数の連携協定の締結を進めてまいりました．また，福岡県で第2回GCOHを主催し，ここで世界獣医師会（WVA），世界医師会（WMA），日本医師会（JMA），日本獣医師会（JVMA）と共に福岡宣言を発表しました.

さらに，私は福岡県議会議員として，日本初のワンヘルス推進条例を制定する重要な役割を果たしました．これにより動物衛生と公衆衛生分野の統合が進み，また初等教育レベルからのワンヘルス教育が導入され，2027年には他に類をみない，「人」，「動物」，「環境」の各分野に関する一体的な調査・研究，専門人材の育成などを行う，全国初の「ワンヘルスセンター」の供用開始を目指しています.

2022年にアジア獣医師会連合（FAVA）の会長に就任してからは，ワンヘルスの取組を活性化させ，2022年に福岡で第21回FAVA大会を主催し，2023年8月にはFAVAの福岡オフィスを開設しました．前述しましたが，私の継続的な努力が認められ，2023年にはWVAからワンヘルス特別賞を受賞しました．その際に，「この賞は，日本の福岡県及びアジア全体でのワンヘルスの取組が認められた証です．ワンヘルスは単なる概念以上のものであり，具体的な予防保健プログラムに統合された実用的な枠組みです．この多分野にわたるアプローチは，医療を超えて広がっています．教育，自動車産業，半導体，農業を革命的に変える可能性を秘めています．私たちは今まで以上に，異なるセクター間の連携を強化することに尽力しています．私たちの究極の目標は，次世代により健康な地球を残し，未来のパンデミックに積極的に備えることです.」と申し上げました.

ワンヘルスの重要性については，私の働きかけにより国会でも取りあげられ，政府としても改めてその重要性を認識し，昨年5月のG7広島サミットでワンヘルスアプローチが論議されました.

続いて，日本獣医師会会長及びWVAの役員としてのリーダーシップと革新の遺産について述べさせてもらいます.

私は福岡県獣医師会会長，九州地区獣医師会連合会の会長として，2000年からツシマヤマネコ，奄美大島のアマミノクロウサギ，宮崎県の都井岬馬，イリオモテヤマネコなどの希少種に焦点を当てて希少野生動物の保護活動を主導してまいりました.

また，2011年の東日本大震災後，福岡県での動物救助活動のガイドラインを確立し，さまざまな自然災害に対応するための獣医療支援チーム（VMAT）を組織するとともに，2016年には九州災害時動物救援センターを日本で初めて設立しました.

昨年12月には，今後発生が予測される直下型の大規模地震，線状降水帯による洪水等の災害，新たな新興・再興感染症の世界的な流行等に対して，日本獣医師会の中に危機管理室を設置したところでした.

このようななか，本年元日に石川県能登半島において震度7を記録する地震が発生し，日本獣医師会は発災直後に危機管理室の関係者から構成される「令和6年能登半島地震緊急対策本部」を設置して，地元石川県獣医師会が設置した「令和6年能登半島地震動物対策本部」等と連携しながら，被害状況等の把握に努めるとともに，早々に支援策及び支援金の募集を開始しました．まだ復旧作業は続いていますが，1日でも早

く皆様の生活が元に戻りますよう願っています.

ご承知のように，私は日本獣医師会会長を2013年から務めており，常に日本の獣医学分野で強いリーダーシップと方向性を示してきました.

加えて，福岡県畜産協会会長を1997年から務めており，リーダーシップを発揮してきました．畜産業界での広範な経験を有し，福岡県の畜産業発展と成長への顕著な貢献が認められていることをお伝えするとともに，中央畜産会の理事も長年勤めており，強力なリーダーシップ能力を発揮し，農業実践に関する深い理解，農畜産物の安全・安心・安定した供給，及び畜産業の進展と必要な協力を行ってきました.

また，私は1998年から福岡県馬術連盟会長として，馬術競技の向上・普及に努めるとともに，先見性を持って長年ホースセラピーの活動を行っています．この取組は欧米諸国等でも行われており，医療面での貢献だけではなく，福祉の面でも大きな可能性を持つものだと考えています.

他にも私は日本の環境保全のために，政府の審議会等に参加して，生態系被害等をもたらす外来生物の飼養や輸入等を原則禁止する外来生物被害防止法の制定に大きな役割を果たしてきたことを誇りに思っています.

動物福祉の分野でも私は10年以上，内閣総理大臣及び環境大臣に任命された動物保護審議会及び中央環境審議会のメンバーとして活動し，動物愛護法の改正に大きく貢献しています.

このように2022年にFAVA会長に就任して以来，アジア全域でのワンヘルス取組を活性化させてきましたが，今回WVA次期会長就任を機に，このワンヘルスの取組を世界において広めていきます.

最後に，私がWVA次期会長選挙に立候補の際に公約した政策の大綱とWVAの会員に訴えたメッセージをお示しします.

キャッチフレーズは，「ワンヘルスを通じてより健康で持続可能な世界を築く」としています.

一つ目は，包括的なワンヘルスイニシアチブであり，ワンヘルスの範囲を，人獣共通感染症と薬剤耐性を超えて，健康で持続可能な人間社会と環境を創造するものへと拡大する.

二つ目は，産業の持続可能性であり，農業，自動車産業，半導体などの産業を未来の世代に向けて持続可能にするために，ワンヘルスの原則を活用する.

三つ目は，獣医職の向上であり，獣医師の社会的地位と認識を向上させることに取り組む．獣医師はワンヘルス枠組みで重要な役割を果たしていると認識している.

四つ目は，国際パートナーシップの強化であり，さまざまな国際機関との協力を強化し，WVAの認知度と社会的地位を向上させる.

メッセージ

私は，動物愛護，野生動物の保護，畜産の振興，公衆衛生の向上，獣医学教育の充実，医師会との連携を日本とアジア太平洋州に広めてきた．この経験を基に，世界獣医師会の会長として世界に広めていきたい．さらに，県議会議員としてのキャリアの多くを，ペットへのマイクロチップ装着義務化や動物看護師の国家資格化など，獣医分野を支える法的枠組みの整備に捧げてきました.

私はワンヘルスを一生涯取り組んでいく使命と考えています.

私たち獣医師は，この職業を通じて世界をよりよくする能力を持っています．私はワンヘルスの概念が，この影響を生み出すためのプラットフォームを提供してくれると信じています．今こそ，世界中の獣医師が団結する時です．皆様のご支援をお願いいたします.